

R4年1月2日4WDのワゴン車で麓の南俣部落まで送って貰う。ここから林道を1時間標高差150mの道行である。朝からサポートの4名がラッセルしてくれて1000mまでは道が有る。一王子小屋(720m)は古くからある小屋でそれなりの手を加えてあり、屋根裏には冬場の荷上げ品が格納してある。到着後一王子小屋に入る前に隣の小沢まで行き、水汲み(20リットル)だ。これが無いと雪を溶かして水作りになる。後は暖房用のストーブを焚いて夕餉の準備。今日は快晴の一日で、ラッセル隊が別れの挨拶に立ち寄る。感謝!

1月3日4時起床、今日から荒れる天気予報だ。外は小雪であるが視界は悪くなさそう。2時間で、食事撤収準備をして薄明かりの6時に出発する。メンバーは4名(40代から70代)のベテランと新人の組み合わせである。昨日のトレースは1000m手前で消え、足首までのラッセルである。積雪は2.5m概ね夏道を行くが時々尾根筋も歩く。視界は50m程度で良いとは言えない。一番の登りの油こぼしに差し掛かる。ここが急坂である。藪沿いに直上する。藪が少なくなって、1200mのシュカブラ地帯となる。



ここからの登りも長い、そろそろ標識を打ち始

める。赤テープやリボンでも良いが雪面では標識が一番である。若手二人を前に出して、三王子の辺りを登り詰める。視界はほぼなくガスの中下降点を探す。意見が割れるが、一昨年のログを表示させ地点を確認して道らしき尾根を行く。写真を撮影する余裕は無い。二人を先行させ、分からなかったら後方から指示を出す。山頂への尾根を登り切ると、大アンテナが氷をまとった樹氷のような姿を見せる。残り数百メートル北西の風をまともに受けながら、過去ログに沿って歩く。小さい丘を越えた所で、スマホが低温でダウン。其のまま直進すると山頂小屋の輪郭がやっと見えた。とりあえず山頂で3人の記念写真を撮



って小屋へ。

入り口は氷結している。除雪をして鉄製のドアに体当たりをしてやっとこじ開けた。3日の日帰り組を食事を取りながら1時間待ったが到着せず。諦めて下山とする。途中すれ違い、標識を貸して健闘を祈り、帰路に就く。夕方に我が家に帰った。行動時間：10時間